

自治医科大学附属病院 総合診療内科の目指す診療・臨床教育

自治医科大学地域医療学センター 総合診療部門・附属病院 総合診療内科 松村 正巳 (石川県9期)

昨年、9月1日付けで自治医科大学地域医療学センター 総合診療部門に赴任しました松村正巳(まつむらまさみ)と申します。よろしくお願いたします。

さて、昨年10月1日から総合診療部は「総合診療内科」と名を改め、内科の一診療科として再スタートいたしました。科長は杉山幸比古先生、副科長は苅尾七臣先生、森澤雄司先生と私が務めております。これまでの総合診療部門の医師、地域医療学センターのほかの部門の医師に加え、消化器内科から牛尾純先生、循環器内科から西村芳興先生、感染症科から大西翼先生も診療に加わり、多士済々、診療・臨床教育を行っております。



総合診療内科の目指す目標として「診療の基礎を修得できる魅力ある教育・研修の場」を挙げています。総合診療内科、内科共通床(後述)としてのベッド運用にて、各科との連携も密になり、垣根を越えた広い内科学、総合医学の教育・研修が可能になりつつあります。4月から当科での研修を希望するシニアレジデント(S1)3名も診療に加わります。

診療

外来診療の内容には大きな変化はありませんが、選定療養費が引き上げられたため(5,250円)、紹介状をお持ちでない初診患者の受診が減少傾向にあります。2013年12月では、外来受診者数62人/日、紹介率50%です。今後、紹介率を60%に上げることを目標にしています。

総合診療内科となり、入院診療には大きな変化があります。ベッドは、総合診療内科16床に加え、内科共通床14床となりました。内科共通床は内科の各専門科が主科として入院中の基本方針を決定いたしますが、日々のケアは総合診療内科の医師が行います。内科共通床を運用することで、若手医師は多岐にわたる疾患の診療に参加できます。当科の入院患者の特徴は、診断困難例、複数臓器に疾患をお持ちの方、救急経由の方が多くいらっしゃる事です。昨年10月以降は、平均新入院患者数40人/月、病床稼働率100%、平均在院日数11日で推移しております。入院経路は救急部経由が多く、当科全体の40~50%を占めます。

昨年10月以降の入院患者の診断名を以下に挙げます。

感染症：市中肺炎、院内肺炎、結核、感染性心内膜炎、細菌性髄膜炎、脳膿瘍、骨髄炎、蜂窩織炎、腎盂腎炎、腎膿瘍、胆管炎、憩室炎、HIV、伝染性単核球症

悪性腫瘍：肺癌、胃癌、肝細胞癌、腎細胞癌、リンパ腫、癌性腹膜炎、転移性骨腫瘍、多発性骨髄腫

自己免疫性疾患：成人Still病、顕微鏡的多発血管炎、巨細胞性動脈炎、リウマチ性多発筋痛症、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、偽痛風

消化器疾患：食道アカラシア、胃潰瘍からの出血

循環器疾患：急性冠症候群、拡張型心筋症、拘束型心筋症、収縮性心膜炎、心アミロイドーシス、心房細動、完全房室ブロック

呼吸器疾患：慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息

代謝・腎疾患：慢性腎臓病、低ナトリウム血症、低カリウム血症、高カリウム血症、高カルシウム血症、糖尿病、甲状腺機能低下症

神 経 疾 患：パーキンソン病、脳梗塞、硬膜動静脈瘻

数では感染症が半数を占めます。

他科とのカンファレンスでは、感染症科、放射線科との定期的なカンファレンスを実施しております。

臨床教育

卒後教育では研修医への臨床教育を、卒前教育として M4 必修 BSL と M5 選択 BSL を担当しています。M4 必修 BSL では、1 班につき、外来 1 週間、病棟 1 週間としています。外来実習では、初診外来実習を内科教員にも協力をいただき、総合診療内科受診の新患の問診、身体診察を行い、評価をフィードバックしています。病棟実習では、チームの一員として主治医チームに入り、カンファレンスにおいて受け持ち患者のプレゼンテーションができるように指導しています。問診・身体診察からどのようにアプローチし、鑑別を考えるかということ、その結果をどのようにプレゼンテーションし、伝えるかという点に重点をおき、教育を実践しております。以下に M4 必修 BSL のプログラム評価から、いくつかの感想を抜粋しました。何かができたとということよりも、うまくできなかったことの方が、彼ら・彼女らに何らかの気づきをもたらし、学びへの動機づけに大きく作用していると考えています。

- ① 初めてやることが多く、一番濃い実習を行うことができました。恥ずかしい思いができ、良い意味でとても刺激になりました。
- ② 実際の患者さん相手の問診、診察を行う事ができ、実際に診察をすることの難しさを知り、改めてもっと勉強が必要であると感じることができました。
- ③ 実践的な経験をたくさんさせていただいた。鑑別診断を挙げてそれに基づいて診察することの大切さを学んだ。
- ④ 症状からどのような疾患（特に初診時）を総合的に考えることは、将来の地域医療で必要なことなので勉強になった。
- ⑤ 教員の先生方が皆さん指導熱心で、勉強させていただきました。病棟・外来・緩和・在宅などの医療のいろいろな面からアプローチさせてもらえました。

M5 選択 BSL は、今年度から新たに開始された選択科目です。研修医とほぼ同じ立場での、参加型臨床実習の実現を目指しています。

その他の活動

私たちが担当した診療の結果を検討する場として、「総合診療内科グランドカンファレンス」を開催しています。開催については、院内・院外へ広報しています。昨年、11 月にはカリフォルニア大学サンフランシスコ校内科学教授であるローレンス・ティアニー（Dr. Lawrence M. Tierney）先生を招聘し、症例検討を行いました。約 160 名の医師、医学生の参加がありました。

以上、ご報告です。今後ともご支援・指導のほど、よろしく願い申し上げます。

！！地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集！！

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

【発行】自治医科大学大学院医学研究科

地域医療オープン・ラボ運営委員会

事務局 学事課大学院係 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp

<http://www.jichi.ac.jp/graduate/index.htm>